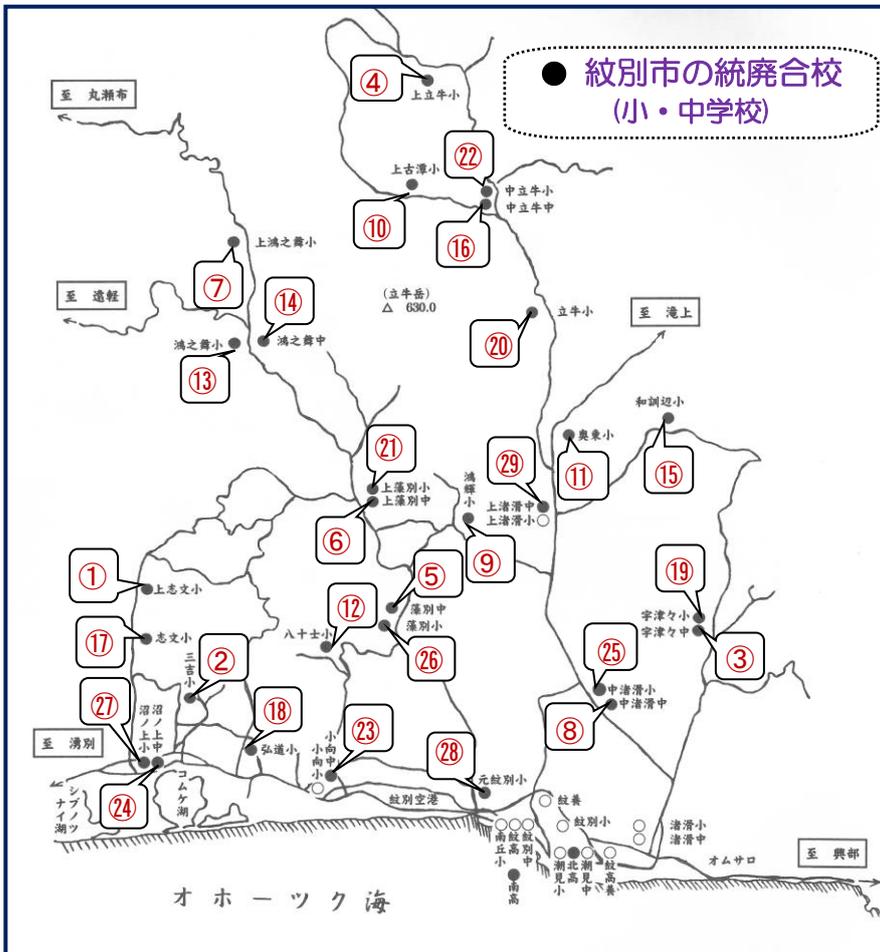




とっかい ~やさしさをはぐくむ~

『 古の我が母校(小・中学校) 』 編

皆さんは、昔学んだ母校を思い出す事はありませんか？
 時が経ち、地域の過疎化が進んだ今、思い出がいっぱい詰まったあの母校を懐かしく感じるがありますよね。
 今回は「古(いにしえ)の我が母校」として、私たちが小さい頃、学んだり遊んだりした、今は無き「学び舎(まなびや)」を取り上げました。



【紋別市の教育の歩み】

1886年(明治19年)の紋別学舎設立から始まり、1892年(明治25年)の紋別簡易小学校開設以降、数多くの小学校や中学校、そして高校や大学が開校しましたが、その後、地域の過疎化も進み、いろいろな事情によりまた多くの学校が統廃合されています。129年経った今、当時の校舎写真とともに、「我が学び舎」(小・中学校編)を振り返ります。
 ※学校名の数字は、統廃合の早い年度順で掲載しています。

① [上志文小学校]

1928年(昭和3年)、鉾山家庭教授場開設の認可を受け、三菱沼ノ上鉾山経営私塾から始まり、昭和23年に上志文小学校(児童数36名)に昇格するも、1959年(昭和34年)閉校となる。

※卒業生 157名



② [三吉小学校]

1958年(昭和33年)2月、児童数14名で開校するも、児童数1名となった1962年(昭和37年)、わずか校歴5年で閉校となる。

※卒業生 10名



③ [宇津々中学校]

1947年(昭和22年)、渚滑中学校分校となり、同年に宇津々中学校として独立するも1963年(昭和38年)校歴16年で、渚滑中学校に統合となる。 ※卒業生136名

⑤ [藻別中学校]

1947年(昭和22年)、生徒数20名で開校。小中併置校として昭和37年には50名の生徒が在籍するも、1966年(昭和41年)3月に紋別中学校と統合。 ※卒業生225名



⑦ [上鴻之舞小学校]

1930年(昭和5年)、鴻之舞尋常高等小学校所属鴻之舞特別教授場として発足し、昭和11年に上鴻之舞尋常小学校に昇格。昭和16年には児童数110名となる。1968年(昭和43年)校歴38年をもって閉校となる。 ※卒業生287名



⑩ [上古潭小学校]

1919年(大正9年)、立牛尋常小学校所属上古潭特別教授場として開校され、1931年(昭和6年)に上古潭尋常小学校として独立昇格する。昭和22年に上古潭小学校と改称されるも児童数の減少から1970年(昭和45年)校歴50年をもって閉校となる。 ※卒業生215名



④ [上立牛小学校]

1916年(大正6年)、立牛尋常小学校所属上立牛特別教授場として児童数14名で始まり、昭和9年特別規定により上立牛尋常小学校として独立。昭和24年には上渚滑村立立牛小学校と改称されるも、児童数3名となった1964年(昭和39年)に中立牛小学校へ統合された。 ※卒業生169名



⑥ [上藻別中学校]

1947年(昭和22年)、鴻之舞中学校上藻別分校として発足。昭和26年には生徒数33名を数えるも、1966年(昭和41年)鴻之舞中学校に統合となる。 ※卒業生204名

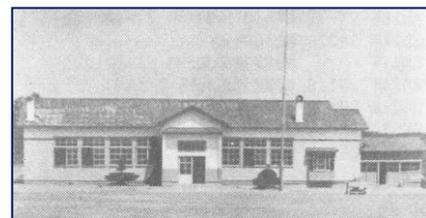
⑧ [中渚滑中学校]

1947年(昭和22年)、中渚滑小学校と併置され、校歴22年をもって1969年(昭和44年)、潮見中学校に統合となる。 ※卒業生508名



⑨ [鴻輝小学校]

1955年(昭和30年)、児童数26名にて新築校舎が開放されるも、児童数の減少(3名)により1970年(昭和45年)閉校となる。 ※卒業生48名



⑪ [奥東小学校]

1920年(大正10年)、第三渚滑尋常高等小学校所属奥東特別教授場として開校(児童数28名)。昭和6年校舎が新築され、翌年に奥東小学校として独立。1971年(昭和46年)に閉校となった。 ※卒業生242名



⑫ [八十士小学校]

1920年(大正10年)、紋別尋常小学校所属八十士特別教授場として児童数11名で開校。昭和18年から23年までは、当時の教師逝去により休講となって、児童は小向へ通学とする事態となったこともある。昭和29年、校舎落成により八十士小学校として独立。しかし児童数1名となった1972年(昭和47年)に閉校となる。 ※卒業生110名



ここのまい
⑬ [鴻之舞小学校]

1917年(大正7年)、元山の鉱夫浴場を模様替えし、仮教授場として授業を開始。(児童数32名) 大正8年、鴻之舞特別教授場として開校し、開校20周年を終えた翌年の昭和17年には、管内最大規模となる31学級、児童数1593名を数えた。

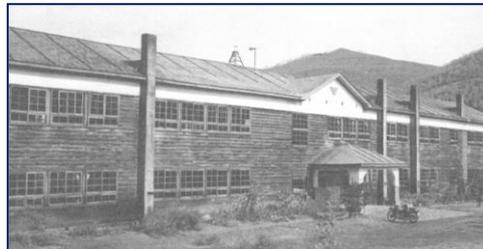
昭和22年に紋別町立鴻之舞小学校となる。

しかし、東洋一を誇った金鉱山も閉山となり、1973年(昭和48年11月30日)、校歴55年をもって閉校となる。
※卒業生 3,913名



ここのまい
⑭ [鴻之舞中学校]

1947年(昭和22年)、生徒数111名で開校。昭和24年には生徒数2,000名を超え、昭和25年には新校舎移転完成落成式が行われた。しかし、その鉱山も閉山の時を迎えた1973年(昭和48年11月3日)、小学校より一足早く校歴26年をもって閉校となる。
※卒業生 2,289名



わくくんべ
⑮ [和訓辺小学校]

1914年(大正4年)、第3渚滑尋常小学校所属和訓辺特別教授場(児童数17名)として創設。

昭和23年には和訓辺小学校と改称され、開校60周年記念事業を終えた翌年の1976年(昭和51年)、上渚滑小学校へ統合され閉校となった。

※卒業生 261名



なかたつし
⑯ [中立牛中学校]

1947年(昭和22年)、上渚滑村立中立牛中学校として開校(生徒数63名)。昭和29年、紋別市立中立牛中学校に改称され、1981年(昭和56年)、校歴34年をもって上渚滑中学校に統合となった。

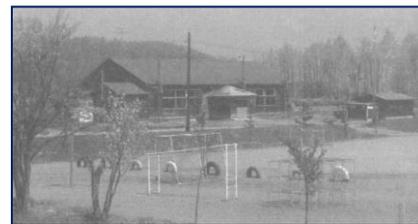
※卒業生 635名

こうどう
⑰ [弘道小学校]

1918年(大正8年)、紋別尋常高等小学校所属弘道特別教授場として開校。

昭和20年には106名の児童数となり、昭和22年に紋別町立弘道小学校と改称された。昭和61年8月に校歌が制定されるも、児童数3名となった翌年の1987年(昭和62年)、校歴67年をもって閉校となる。

※卒業生 309名



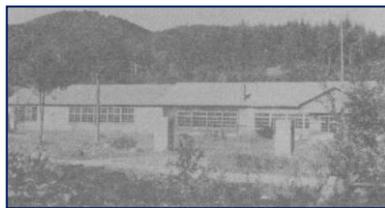
しぶん
⑱ [志文小学校]

1913年(大正3年)、紋別尋常高等小学校所属志文特別教授場として開校。

大正4年4月には、大暴風のため校舎の倒壊に見舞われるも5か月後に新校舎が落成。

昭和22年に紋別町立志文小学校と改称したが、児童数1名となった1982年(昭和57年)に校歴69年をもって閉校となる。

※卒業生 404名

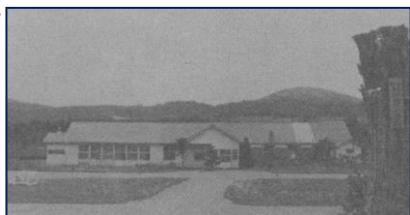


うつつ
⑲ [宇津々小学校]

1907年(明治40年)、渚滑村第一教育所として設置され、児童数21名にて開校式が行われる。

昭和22年に宇津々小学校と改称され、昭和61年には開校80周年記念式典と宇津々開基90年を祝うも、1990年(平成2年)に校歴84年をもって閉校となった。

※卒業生 553名



たつし
⑳ [立牛小学校]

1910年(明治43年)、渚滑第2教育所(現滝下小学校)所属立牛教授場として開校。昭和6年校舎を移転し、昭和22年に上渚滑村立立牛小学校と改称されるも、その後児童数の減少により1991年(平成3年)、校歴81年をもって閉校となった。

※卒業生 720名



かみもべつ
⑳ [上藻別小学校]

1912年(明治45年)、藻別簡易教育所附属上藻別特別教授場として開校。昭和16年に高等科が設置されて児童数191名となる。

昭和57年に開校70周年記念式典が行われるも、1991年(平成3年)78年の歴史を閉じることとなった。

※卒業生 685名



なかたつうし
㉑ [中立牛小学校]

1913年(大正3年)、第3渚滑尋常小学校所属中立牛教授場として開設され、昭和2年に中立牛尋常小学校に昇格。昭和8年には児童数も164名を数え、昭和22年に中立牛小学校となる。

1996年(平成8年)校歴81年をもって閉校となった。

※卒業生 941名



こむかい
㉒ [小向中学校]

1947年(昭和22年)、紋別中学校小向分校から始まり、8月に小向中学校として独立。

昭和24年に独立校舎が完成し、36年には小中学校合併併置校となる。(生徒数132名)

しかし生徒数の減少から、校歴51年をもって1999年(平成11年)紋別中学校へ統合された。

※卒業生 1,000名



ぬまのうえ
㉓ [沼ノ上中学校]

1947年(昭和22年)、紋別中学校沼ノ上分校から始まり、9月に沼ノ上中学校に昇格、小学校と併置になる。昭和38年に新校舎の落成(生徒数116名)をみるも、生徒数の減少により2000年(平成12年)、校歴53年をもって紋別中学校に統合となった。

※卒業生 952名



なかしょこつ
㉔ [中渚滑小学校]

1900年(明治33年)、中渚滑簡易教育所として奥一道氏所有の家屋を借りたのが始まりで、明治38年に第2渚滑尋常小学校として制定される。

昭和9年に中渚滑尋常高等小学校と改称され(児童数203名)、昭和22年には中渚滑小学校と改称(中学校と併置)されるも、児童数の減少から2004年(平成16年)、校歴104年をもって休校、2011年(平成23年)に閉校となった。

※卒業生 1,580名



もべつ
㉕ [藻別小学校]

1901年(明治34年)、元紋別の山田製軸工場内に藻別簡易教育所として開校。明治42年に紋別尋常高等小学校所属特別教習所となる。(現在の元紋別神社付近)

昭和22年に藻別小学校と改称され、62年には新校舎が落成し、平成13年に開校100周年を迎えるも、児童数の減少から2005年(平成17年)、校歴103年の長い歴史を閉じて元紋別小学校へ統合された。

※卒業生 736名



ぬまのうえ
②⑦ [沼ノ上小学校]

1903年(明治36年)、信太製軸工場草葺き小屋を仮特別教授場として開設され、当時は湧別村役場内に属した。

その後、大正11年沼ノ上尋常小学校と名称を変え、昭和22年に紋別町立沼ノ上小学校と改称された。

平成12年に新校舎が落成するも児童数の減少により、2011年(平成23年)には南が丘小学校へ統合となった。 ※卒業生782名



かみしよこつ
②⑨ [上渚滑中学校]

1947年(昭和22年)、新学制施行により上渚滑村立上渚滑中学校として開校(生徒数107名)。制服が指定された昭和38年には生徒数333名を数え、昭和43年には校舎落成と開校20周年記念式が催された。

1996年(平成8年)に、開校50周年記念和太鼓が納入され、



平成12年からは総合的な学習の時間として「和太鼓」に取り組むようになる。

しかし生徒数の減少から、2017年(平成29年)、70年の歴史を閉じることとなった。



もともんべつ
②⑧ [元紋別小学校]

1901年(明治34年)、山田製軸工場主宅において子弟8名の教育にあたったのが始まりで、同年に藻別簡易教授場として認可を受ける。昭和2年に紋別町立元紋別尋常小学校に昇格するも、昭和58年の北陽製紙工場閉鎖により児童数が激減し、平成19年に特別認可校となるも減少傾向は続き、2017年(平成29年)校歴115年をもって閉校となった。



2018年(平成30年)5月、旧元紋別小学校の校舎を改修し、集団での利用が可能で体験学習などの様々な研修が出来る、宿泊機能を持つ生涯学習施設「紋別生涯学習センター」として生まれ変わりました。

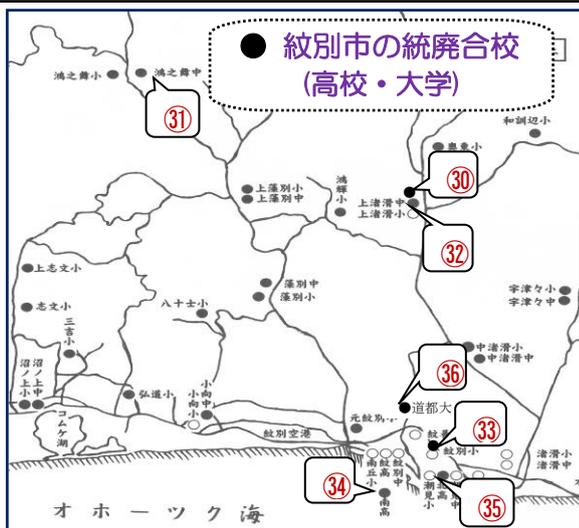


今回紹介した「^{いにしえ}古の^わ我が^{ほころ}母校」(小・中学校)編のその数は29校にもなります。

たとえ当時の校舎が今は無くても、小さい頃に友達と遊び、勉強した懐かしいあの学び舎が、私たちの記憶の中には、しっかりと残っているのではないのでしょうか？

いにしえ わ ほころ
『古の我が母校』(特別篇)
(高校・大学)

今回は、我が学び舎を掲載する絶好の機会なので、特別篇として高校と大学も紹介します。



らくのうがくえん かみしょこつ
③① [酪農学園短期大学上渚滑分校]

1960年(昭和34年)、上渚滑農協が当時の副組合長を分校長にして開校。ただ、これは本校(江別市)から定期的に講師を招いて集合教育を行う特別講座的の分校であり、やがて受講者の意欲も薄れて僅か2年で閉校した。

かみしょこつ
③② [上渚滑高等学校]

一町村一校の高校教育の趣旨により1953年(昭和28年)村立上渚滑高等学校(定時制普通科)として中学校校舎を仮校舎に開校。

市制施行により紋別市立となり、昭和35年第一種高校に昇格して独立校舎を建築したが中卒者の減少に伴い、1972年(昭和47年)、校歴19年をもって閉校となった。

※卒業生 199名

もんべつみなみ
③④ [北海道紋別南高等学校]

1956年(昭和31年)、紋別中学校の一部を仮校舎に紋別市立女子高等技芸学校として創立。昭和36年に紋別市立花園高校の設置が認可され、昭和38年に現在地に移転。

昭和41年道立に移管後、全道にも類のない家庭科と工業科を設置した紋別南高校が誕生する。2006年に創立50周年記念式典を行い、翌2007年(平成19年)3月31日に在校生は北海道紋別高等学校へ編入し、紋別南高校は閉校を迎えた。



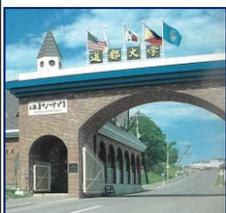
(紋別南高)
・(紋別高校)
(校舎)

2007年4月1日、紋別北高校との統合により、紋別南高校の校舎を使用した新設高校の北海道紋別高校が開校。

どうと
③⑥ [道都大学]

1978年(昭和53年)、落石町7丁目に道都大学(社会福祉学部・美術学部)が開学。

当時の北海道では、どちらの学部も初めて設立されたものであったが、1996年(平成8年)に美術学部、2004年(平成16年)に社会福祉学部が、いずれも札幌キャンパス(北広島市)に移転となり、紋別から大学が撤退する結果となった。



(はまなす門)



(学部棟)

こうのまい
③① [鴻之舞高等学校]

1951年(昭和26年)、道立紋別高等学校鴻之舞分校として発足。鴻之舞中学校の校舎を借りて授業を始め、翌年に紋別町立鴻之舞高等学校として独立。市制施行により市立となってから最高152名の学生が在籍するも、鉱業所の縮小に伴って入学者も激減し、1967年(昭和42年)校歴16年をもって閉校となった。

※卒業生 237名

さんぎょうのうりつ もんべつ
③③ [産業能率短期大学紋別教室]

1967年(昭和42年)通信制の短大としてオホーツク青年の家で開設。当時は紋別南北の高校に講師を委嘱するなどしたが、後に私大の急増や社会情勢の変化などで就学者が減り、1980年(昭和55年)廃止となる。 ※卒業生 54名

もんべつきた
③⑤ [北海道紋別北高等学校]

1943年(昭和18年)、北海道紋別中学校として創立され、昭和23年の新学制実施により北海道立紋別高等学校と改称。昭和25年に紋別女子高等学校を統合して男女共学を実施する。

その後、普通科・水産製造科・商業科・工業科を増設して課程充実を図るも、昭和40年に工業科を花園高校に移設し、翌年に花園高校が道立移管となって紋別南高校と改めたのと同時に、紋別高校は紋別北高校と改称する。

昭和50年に校舎改築と併せて創立30周年記念、平成15年には創立60周年記念を迎えるも、水産製造科や定時制の募集停止、商業科の間口減と縮小が続き2009年(平成21年)、一時期最大5学科27学級を数えた紋別北高校も、66年間の歴史を閉じることとなった。



(旧校舎)



(新校舎)

今回紹介した学校に、あなたの母校はありましたか？

長い年月を経ても、自分が学んだ学校には、何物にも代えがたい思い出と愛着があると思います。

<発行>

紋別市教育委員会生涯学習課 社会教育係
紋別市潮見町1丁目4番3号(市民会館内)

☎ 24-2416 FAX 23-5603